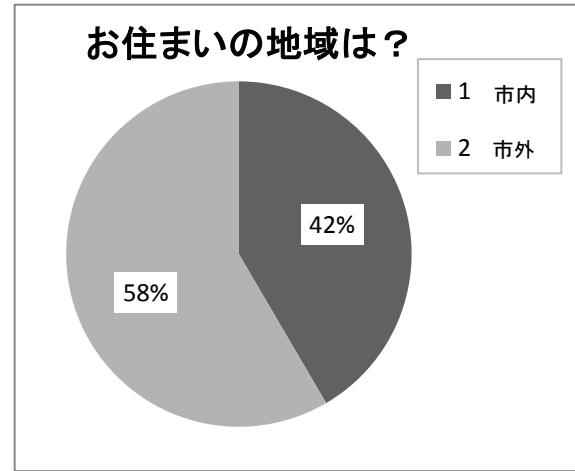
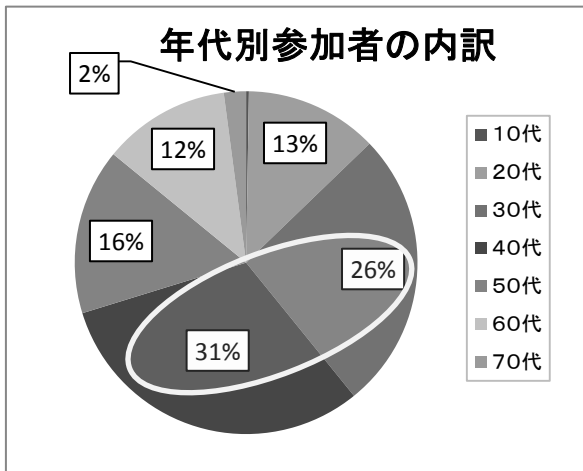


平成28年度 商工会議所健康診断 歯や歯肉の健康に関するアンケート結果（継続参加者）

■アンケート回答者の内訳

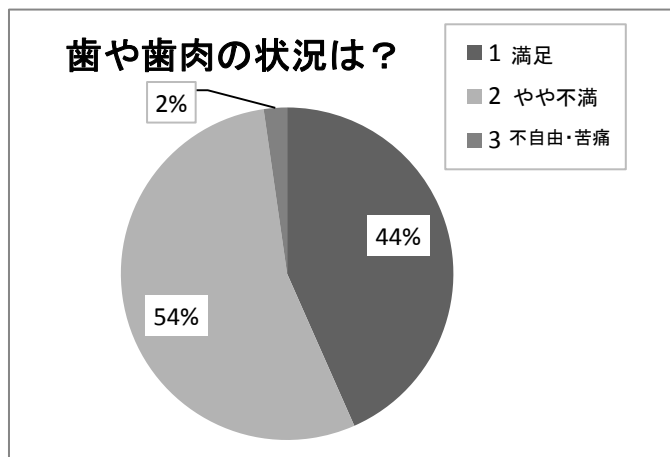


年代別の内訳は、40代が一番多く31%、次いで30代で26%という結果になりました。

30代(26%)と40代(31%)、両方で57%となり、約半数を占める結果となりました。

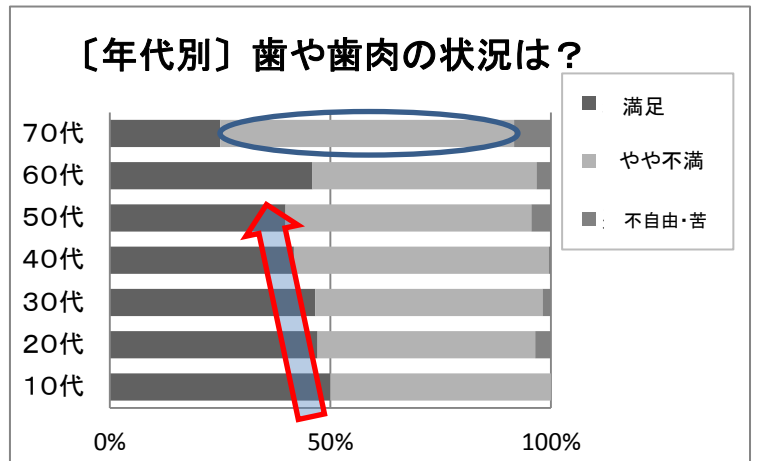
お住まいの地域について、市内在住の方は全体の42%、市外在住の方は58%で、市外の方の割合の方が高い結果となりました。

①-1歯や歯肉の状況についてどう感じているか



歯や歯肉の状況について、満足と回答した人は44%、やや不満と回答した人は54%、不自由・苦痛と回答した人は2%という結果となりました。

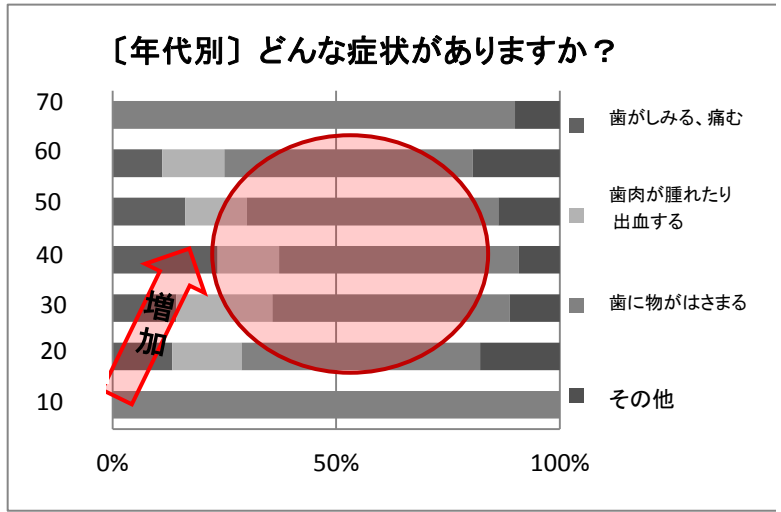
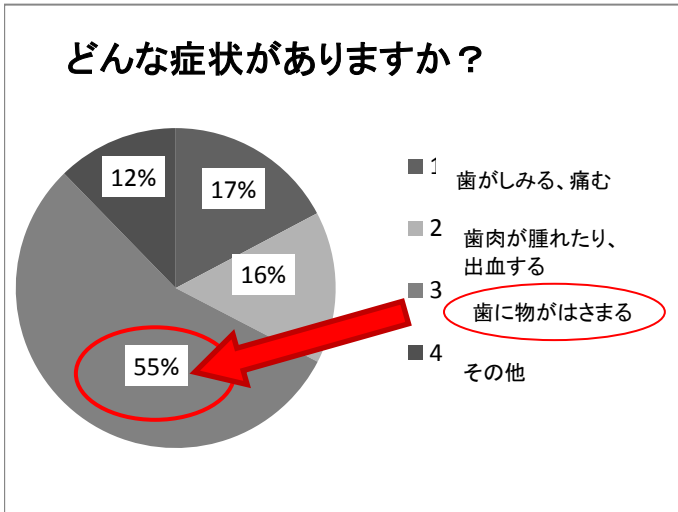
不自由や苦痛を感じるという人は2%あり、半数強の方が、何らかの症状があり、やや不満と回答されました。



年代別の状況を見てみると、満足と回答した人の割合は、10代から50代までは年々減少する傾向にありました。

また、70代を見てみると、やや不満及び不自由・苦痛と感じているものの割合が多い結果となりました。

①-1 どんな症状があるか



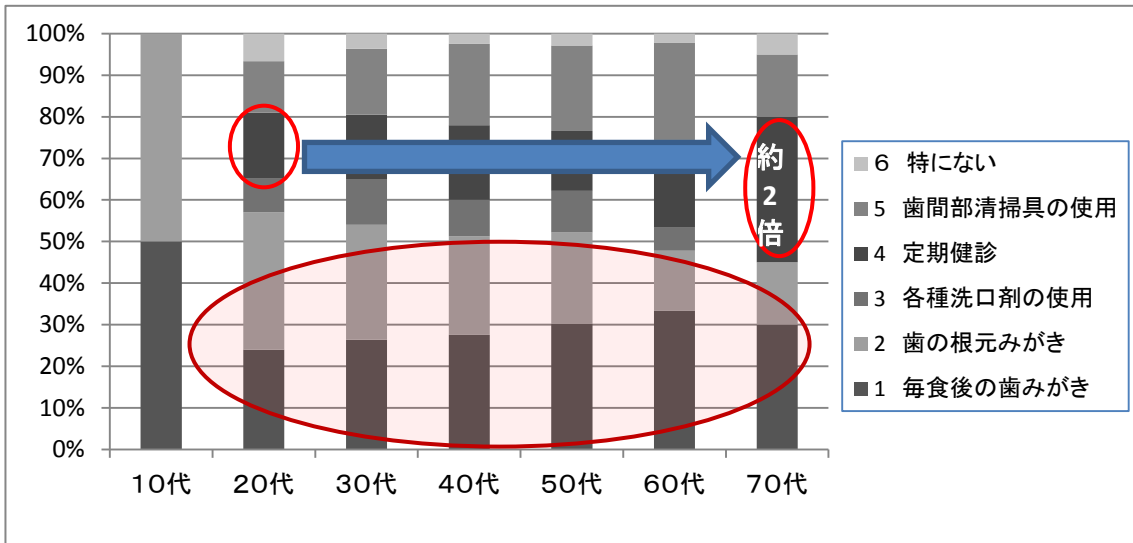
歯や歯肉の状況について、やや不満及び不自由・苦痛と回答した人の症状についてお伺いしたところ、「歯に物がはさまる」と回答した人は55%、次いで「歯がしみる」で17%、「歯肉が腫れたり、出血する」で16%という結果になりました。

「歯に物がはさまる」は、歯周病の特徴的な症状の1つであり、半数以上の方がこれに該当する結果となりました。

歯や歯肉の症状について年代別で比較すると、「歯がしみる、痛む」と回答する人は40代まで増加傾向にあるものの、40代以降は減少傾向を示す結果となりました。「歯に物がはさまる」と回答した人は、20代以降どの世代も該当する割合が高い結果となりました。

「歯に物がはさまる」という項目は、歯周病の特徴的な症状の1つであり、半数以上の方がこれに該当する結果となりました。

② 歯や歯肉の健康維持で心がけていることは？

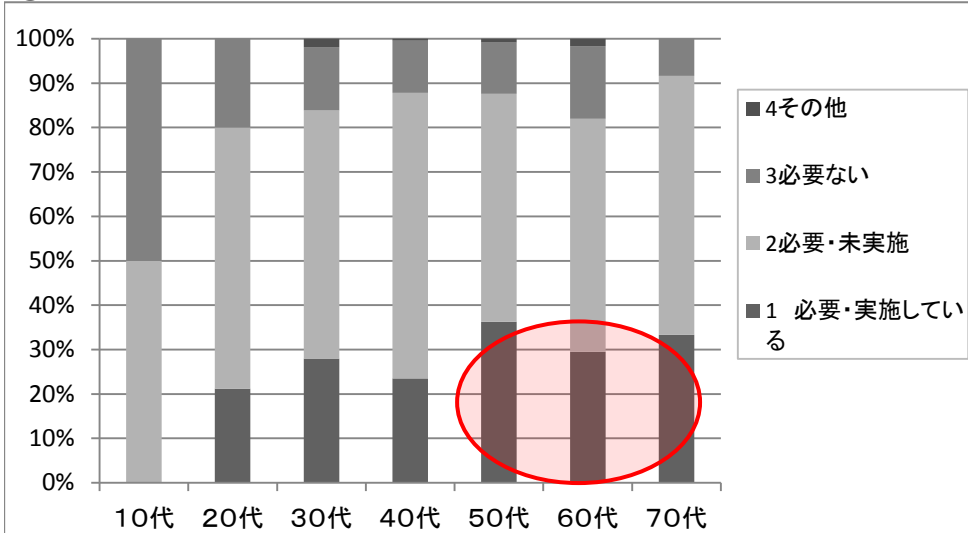


心がけ(割合)		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
②	1 毎食後の歯みがき	50.0%	24.0%	26.4%	27.5%	30.1%	33.3%	30.0%	28.0%
	2 歯の根元みがき	50.0%	33.1%	27.6%	23.7%	22.0%	14.4%	15.0%	24.5%
	3 各種洗口剤の使用	0.0%	8.3%	11.0%	8.8%	10.0%	5.6%	0.0%	9.0%
	4 定期健診	0.0%	15.7%	15.4%	17.9%	14.4%	21.1%	35.0%	16.9%
	5 歯間部清掃具の使用	0.0%	12.4%	15.9%	19.6%	20.6%	23.3%	15.0%	18.3%
	6 特にない	0.0%	6.6%	3.7%	2.5%	2.9%	2.2%	5.0%	3.3%

歯や歯肉の健康維持として『心がけていること』についてお伺いしたところ、毎食後の歯みがきとの回答が28.0%と一番多い結果になりました。続いて歯の根元みがきで24.5%、歯間部清掃具の使用で18.3%、定期健診で16.9%という結果になりました。「毎食後の歯みがき」と「歯の根元みがき」をあわせると、52.5%と約半数を占め、歯みがきの必要性に関する認知度の高さが伺えました。

項目ごとで比較すると、定期健診の回答者は年代が増すごとに増加傾向にあり、70代の結果(35.0%)は20代の結果(15.7%)の2倍以上の増加率となりました。

③ 昼食後の歯みがきの必要性について、どのように思うか？

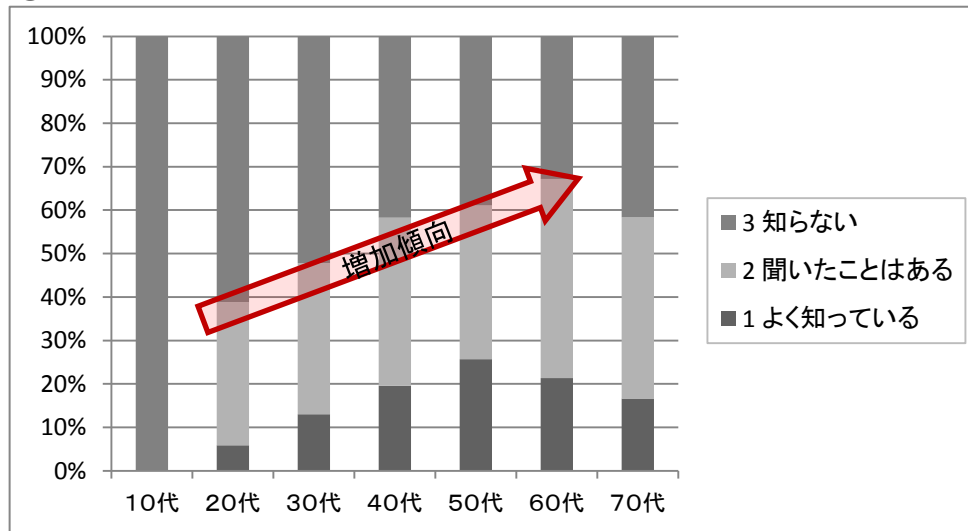


昼食後の歯みがきの必要性について、年代別で比較すると『必要で実施している』と回答した人が50代で増加傾向にありました。この背景の一つとして、この世代は、何らかの症状が表立って出てくる世代であり、歯みがきの必要性について改めて実感し、それを踏まえた上で行動変容に結びつける背景があるのではないかと考えます。

また『必要だが未実施』と回答した人は、40代が一番多い結果となりました。

なかなか歯を磨く時間がない、といった回答理由をあげている人も多く、仕事で日々忙しい背景が伺えました。

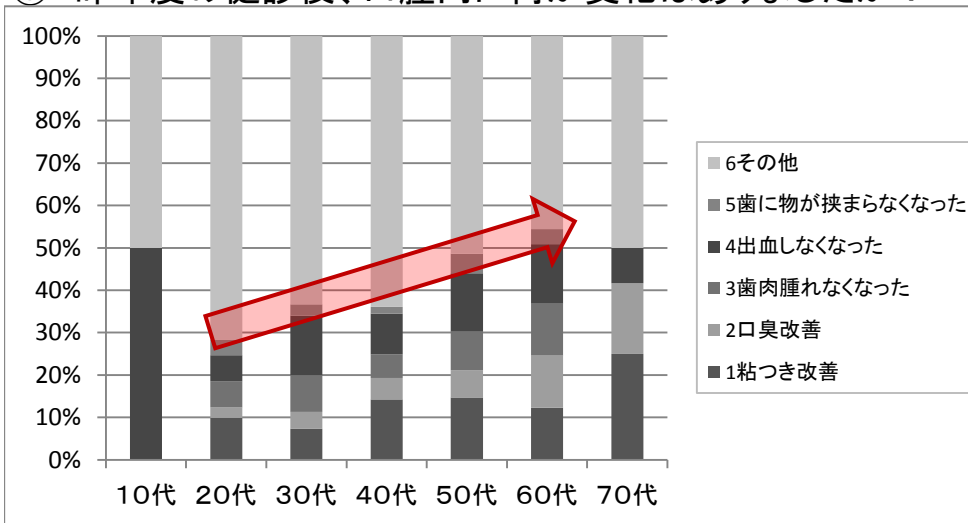
④ 糖尿病と歯周病との関連について、どの程度ご存知ですか？



糖尿病と歯周病との関連に関する認知度について年代別で比較すると、50代までは『よく知っている』、『聞いたことはある』と回答した人がいずれも増加傾向にありました。

20代でも『聞いたことはある』と回答した人が40%弱となり、この項目に関する認知度が、年々浸透してきている様子が伺えました。

⑤ 昨年度の健診後、口腔内に何か変化はありましたか？



昨年度の健診後、口腔内に何か変化があったかお伺いしたところ、「その他」を除き一番多かったのが「粘つき改善」で全体の12.0%、「出血しなくなった」が11.5%という結果になりました。

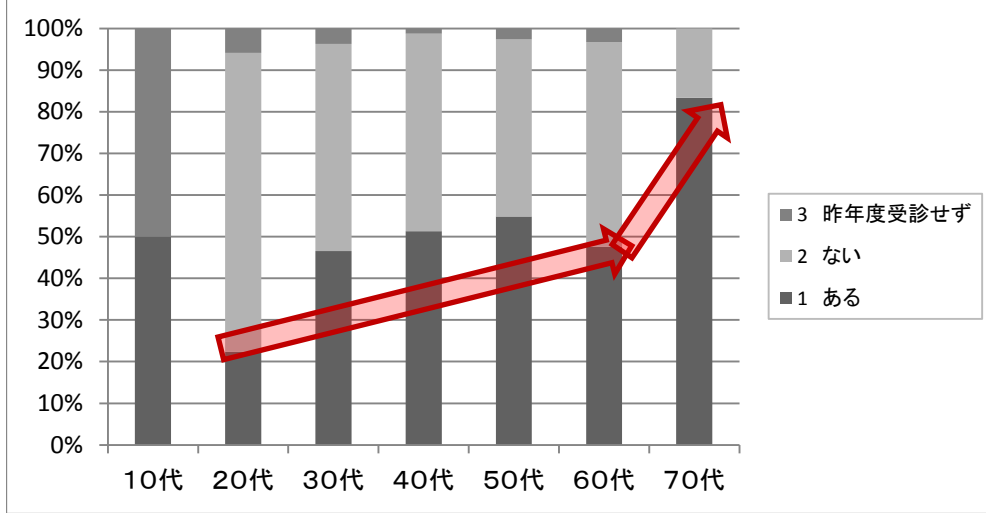
特徴的な項目としては、粘つき改善をあげた方が40代を境目に増加傾向に、また口臭改善項目についても60代を境目に増加傾向を示す結果となりました。

粘つき改善については、20代で9.9%、70代で25.0%、その差は約2.5倍という結果になりました。

年代ごとに『何らかの変化があった』と回答した人は増加傾向にありました。

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
⑤	1粘つき改善	0.0%	9.9%	7.3%	14.2%	14.7%	12.3%	25.0%	12.0%
	2口臭改善	0.0%	2.5%	4.0%	5.1%	6.4%	12.3%	16.7%	5.6%
	3歯肉腫れなくなつた	0.0%	6.2%	8.7%	5.6%	9.2%	12.3%	0.0%	7.6%
	4出血しなくなった	50.0%	6.2%	14.0%	9.6%	13.8%	14.0%	8.3%	11.5%
	5歯に物が挟まらな	0.0%	3.7%	2.7%	1.5%	4.6%	3.5%	0.0%	2.8%
	6その他	50.0%	71.6%	63.3%	64.0%	51.4%	45.6%	50.0%	60.5%

⑥ 昨年度の健診後、歯や歯肉の健康のため心がけたことはありましたか？



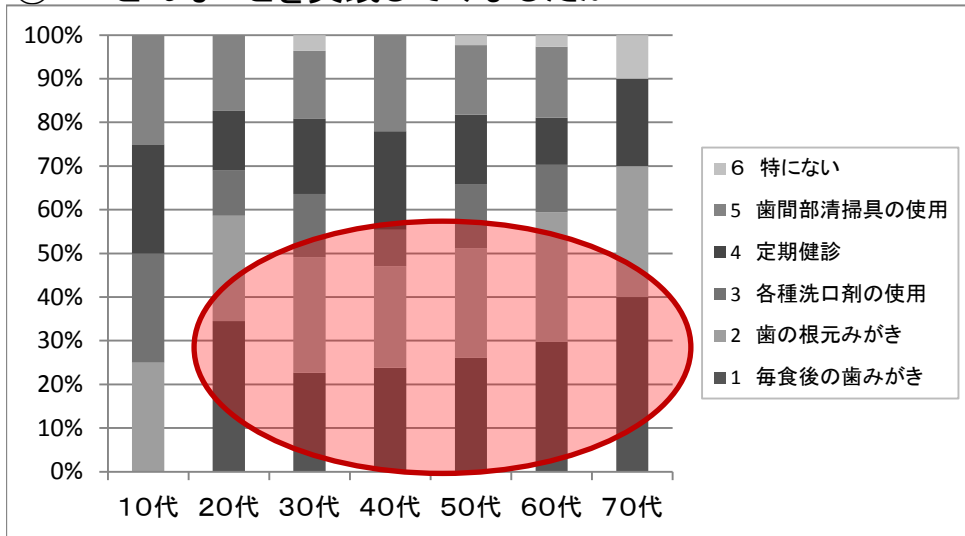
昨年度の健診後の行動変容についてお伺いしたところ、「ある」と答えた方が約半数を示す結果となりました。

年代別で比較すると、20代で「ある」と答えた人は22.4%と低い状況でしたが、30代、40代、50代、70代と増加傾向を示す結果となりました。

40代、50代では、半数以上の方が何らかの取組みを実践した様子が伺える結果となりました。

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
⑥	1 ある	50.0%	22.4%	46.6%	51.3%	54.9%	47.5%	83.3%	47.3%
	2 ない	0.0%	71.8%	49.7%	47.4%	42.5%	49.2%	16.7%	49.7%
	3 受診せず	50.0%	5.9%	3.7%	1.3%	2.7%	3.3%	0.0%	3.0%

⑥-1 どんなことを実践してみましたか？



具体的にどんな内容を実践してみたかについてお伺いしたところ、「毎食後の歯みがき」、「歯の根元みがき」と答えた方が25%代を示す結果となりました。

次いで「定期健診」、「歯間部清掃具の使用」について回答する方がいずれも17.9%という結果になりました。

年代別で比較すると、40代で「定期健診」や「歯間部清掃具」と答えた人は22.0%と他の年代より高い数値を示す結果となりました。

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
⑥内訳	1 毎食後の歯みがき	0.0%	34.5%	22.7%	23.8%	26.1%	29.7%	40.0%	25.3%
	2 歯の根元みがき	25.0%	24.1%	26.4%	23.2%	25.0%	29.7%	30.0%	25.1%
	3 各種洗口剤の使用	25.0%	10.3%	14.5%	8.3%	14.8%	10.8%	0.0%	11.4%
	4 定期健診	25.0%	17.2%	15.5%	22.0%	15.9%	16.2%	0.0%	17.9%
	5 歯間部清掃具の使用	25.0%	17.2%	15.5%	22.0%	15.9%	16.2%	0.0%	17.9%
	6 特にない	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	2.3%	2.7%	10.0%	1.8%

まとめ

お忙しい中、アンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。

昨年度、健康診断をお受けの皆様にお口の中の状況をお伺いしましたところ、「歯に物がはさまる」、「歯にしみる」など何らかの症状があると回答された方が約半数おられました。年代別で比較すると、有症状者の傾向は年代が増すごとに増加傾向にありました。歯周病は、年齢が増すごとに増加する傾向にあり、相関がみられる結果となりました。

健診後、何か実践してみたことがあるか、との問いに、「ある」と回答した人は20代で20%台と低い数値でしたが、30代以降増加傾向を示す結果となりました。また、口腔内の変化についての問いに関しては、年代が増すごとに改善傾向が伺える結果となりました。半数以上の方が「実践した」という年代もあり、この事業をとおして歯や歯肉の健康について考え、実践するきっかけづくりになったのではないかと考えます。

歯と歯の間に残っている歯垢には、むし歯や歯周病の原因菌が沢山含まれていますから、「デンタルフロス」や「歯間ブラシ」といった歯間部清掃具を使用し、むし歯や歯周病の原因菌をしっかりと取り除くことをオススメします。

歯肉の病気「歯周病」の原因菌は、糖尿病や認知症、心疾患など全身の健康にも影響を及ぼすことがあるため、日々の歯ブラシや歯間部清掃具を使用する口腔ケアと、かかりつけの歯医者さんでの定期的な歯科健診やクリーニングを行い、お口も身体も健康に、生涯現役で過ごせるようできることから取り組んでみましょう。

実施数	年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0

市内在住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市外在住	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

①	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※その他内訳

1

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
③	要・実施し	0	18	45	54	41	18	4	180
	必要・未実	1	50	90	148	58	32	7	386
	3 必要ない	1	17	23	27	13	10	1	92
	4 その他	0	0	3	1	1	1	0	6

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----